

親潮

第310号
平成30年度 第2号

OYASHIO

北水同窓会誌

2018
310
No.2

北水同窓会のEメールアドレスが変更になりました | ホームページをリニューアルしました
hokusuialumni@gmail.com | <http://hokusui.net>



特集 北水の今

北海道大学水産学部附属練習船
「おしよろ丸V世」が
竣工から4年目にして、初の外国航路

総会案内 各種行事開催報告 クラス会報告 寄稿 ほか

親潮

第310号
平成30年度 第2号
OYASHIO

CONTENTS

第98回(2018年)北水同窓会定期総会 開催案内 3

特集 北水の今

**北海道大学水産学部附属練習船
「おしよろ丸V世」が
竣工から4年目にして、初の外国航路**
..... 4

大木 淳之(〇〇〇〇)

**北海道大学ホームカミングデー 2017
水産学部卒業生の集い** 9

高木 力(平元千)

支部会・クラス会報告 10

平成29年度北水同窓会茨城県支部総会
遠漁44年卒同期会の報告
昭和48年水産類入学+α同窓会
北水同窓会長崎県支部総会
北水同窓会気仙沼支部会'17報告
昭和62年卒業77期同期会
北水同窓会広島県支部会'17報告
北大進学相談会(大阪)後の懇親会報告

寄稿 16

高木 英男(昭59千)

学位取得者 19

会員の異動 20

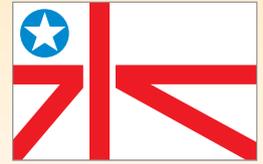
会員死亡通知 21

親潮投稿規定・編集後記 22



第98回(2018年)

北水同窓会 定期総会



[今年は大阪にて開催!]

春風の心地よい季節になりましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。
第98回目となる北水同窓会の定期総会は大阪で6年ぶりに開催することとなりました。
新卒の方の参加も大歓迎です(懇親会では新卒歓迎会も兼ねています)。
多数の同窓のご出席を大阪の地でお待ちしています。

開催案内

日時 ● 2018年5月26日(土)

H30大阪府支部総会は
第98回定期総会と同会場で開催

会場 ● トップラウンジ31

(うおまん中之島店)
大阪市北区中之島6丁目2番27号
中之島センタービル31階

受付 ● 14:00~15:00

総会 ● 15:00~16:00 (本部総会・支部総会)記念撮影

講演会 ● 16:10~17:10 (海遊館西田清徳館長)

懇親会 ● 17:20~19:30 ※新卒歓迎会も兼ねています

総会費 ● 7,000円 ※H30年新卒(学部・院)会員は無料
会費は当日受付させていただきます。
※支部年会費は今期も無料とさせていただきます。

申し込み締め切り日 ● 4月30日(月)



お申込み先

参加ご希望の方は下の参加申込書にご記入の上、メール、FAX、郵送でお申し込みください。

Eメール:hokusui-osaka@mail.goo.ne.jp FAX:06-6343-3736(北大会館電話共通)

郵送:〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目2番2-200号北大会館内 北水同窓会大阪府支部あて

FAXまたは郵送にてお申し込みの場合は、このページをコピーして送信用紙としてお使いください。

〈北水同窓会大阪府支部あて〉

FAX 送付先 06-6343-3736

第98回 北水同窓会 定期総会 参加申込書 (1名毎に記載願います)

下記に記入し、郵送、FAXまたは同じ内容をE-mailにてご連絡願います

ふりがな	卒業年次	学 科
お名前	明・大・昭・平 年	
ご住所 〒(-)		
電話 ()	FAX ()	
E-mail:		
参加申込欄 右記の□に✓をお願いします	<input type="checkbox"/> 北水同窓会定期総会	<input type="checkbox"/> 懇親会
通信欄		

北海道大学水産学部附属練習船「おしよろ丸V世」が竣工から4年目にして、初の外国航路

大木 淳之(特別会員)

2011年より水産学部で勤務。それ以前は北大院環境や北水研、環境研でポストドクをしてきた。行く先々で北水卒業生の方々に支えられてきた縁があり、現在に至る。

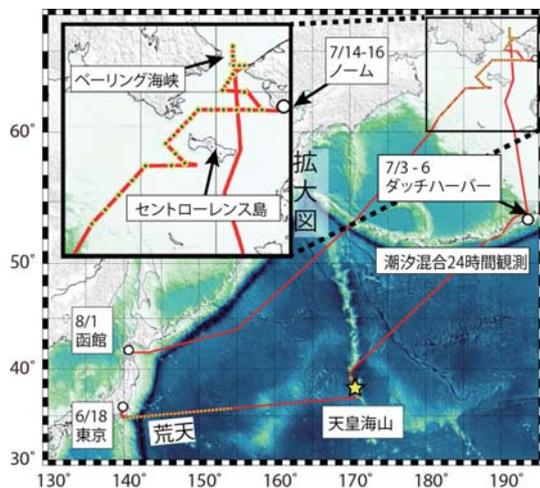


図1. おしよろ丸第40次航海航路図

北海道大学水産学部附属練習船「おしよろ丸V世」が平成26年6月に竣工しました。竣工から4年目にして、初の外国航路に出ました(図1)。IV世を含めると5年ぶりの外航になります。これまで、おしよろ丸北洋航海ではダッチハーバーでの寄港に際して、北水同窓生のお力を借りてユニシー社の専用岸壁を使わせてもらってきました。現在でも、そのご厚意を承っています。北水同窓会の皆様が築き上げてきたものを引き継いで、平成29年のおしよろ丸外航を実現することができました。航海責任者を同大学院水産科学研究所の大木が務めたので、同窓会誌にて本航海を報告させていただきます。研究内容の紹介に加えて、本航海での学生たちの様子を交えて記します。

■航海目的

北大水産学部に専攻科があった時代の北洋航海は海技教育が主目的でしたが、近年は海洋環境調査の研究・教育が目的になっています。そのため、乗船研究者(学生も含む)は皆研究目的での乗船となります。平成29年度北洋航海においては、「北極海生態系メカニズムの解明(ArCS)」を主テーマとして、それ以外に、「海洋混合学の創設」、「海洋下層雲の気象

観測」、「アリューシャン列島潮汐混合観測」、「漂流ゴミ調査」など複数のテーマを擁しました。主テーマであるArCSとは、文科省による北極域研究推進プロジェクトのことで、環境変動と人為的インパクトに対する北極海生態系の反応メカニズムを解明することを目的としています。本航海のArCSテーマでは、北極海(ベーリング海～チャクチ海)における、海水の流れと栄養物質の循環を調べる物理・化学チーム、プランクトンから、底生生物、魚類、海鳥、鯨類など低次から高次生態系までをカバーする生物チーム、そして、人工衛星により海洋生態系を広域解析する衛星チームの複合で構成しました。

■メンバー

乗船研究者数は31名(うち学部4年生11名、大学院生10名)です。北大水産学部が24名、低温研が1名、北方圏フィールド科学センター(厚岸)が3名、他機関から東大気海洋研が2名、JAMSTECが1名でした。学生のうち半分が女性で、過去には無いような女性比率だと思います(写真1)。他機関からの乗船研究者の中には、女子学生がこれほど多い研究航海は初めてで、驚きと戸惑いの様子の方もいらっしゃいました。このような比率になると、船内では女性がムードメーカーになり、観測全般をリードしてくれて、船内の規律が保たれていたように思います(もちろん、男子学生も観測では活躍しています 写真2)。私が航海責任者を務めるにあたり、船内生活の休息中に男子学生が羽目を外しすぎないかが心配事の一つでした。本航海では、そのようなことは全くなく、研究・観測に専念することができて助かりました。近年、理系分野で活躍する女性を増やすことが日本の成長力アップにつながるといわれています。おしよろ丸V世では、女性用風呂・トイレが充実されるなど、船内生活において女性になるべく不自由しないような設計になっています。北洋航海に参加する元気な女子学生が増えることは大変よいことだと思います。北洋航海を通して、社会のリーダーになりうる理系女性を育てるのも、おしよろ丸の役目だと感じました。



写真1. 乗船研究者集合写真

■東京出港

平成29年6月10日に函館を出港して、東京で燃料を積んだのち、アリューシャン列島のダッチハーバーへ向けて6月18日に東京を出港しました。運航経費を少しでも節約するため、東京で安い燃料を積む必要があったのです。

東京出港前から、怪しげなグルグル目玉の(等圧線の混んだ)低気圧が日本列島に近づきつつありました。東京湾を出た直後に大しけに見舞われ、2ノットでしか進めない状況が2日間も続きました。出港から3日たっても、本船の位置を示す電子海図上に関東地方が大きく映し出されていて、「遙か先のダッチハーバーに辿りつけるのか?そもそも我々は何処に向かっているの?」と、早々に不穏な空気が漂いました。この低気圧が過ぎ去ったあとも、次の低気圧が迫っていたので、全速力で最初の観測点の天皇海山に向かいました。その途中、JAMSTECの川合先生によるラジオゾンデバルーン観測を毎日2回、漂流ゴミの目視調査を毎日8時間行いました。漂流ゴミ調査とは、学生を3人一組で班分けし、日中にアッパーブリッジから海面を凝視して漂流するゴミをカウントする調査です。亜寒帯循環域に入ると、めっきり人工物が減ったのですが、それでも10分に1回は漂流する人工物が確認されました。人工物だけでなく、自然物(鳥の羽、流れ藻、木片)までを詳細(種類、色、サイズ、距離)に記録する必要があります。普段は気にも留めない漂流ゴミですが、この調査のときに限っては、ビニール袋の破片でも見つけると、学生たちは(嬉しくて?)大騒ぎしていました。とてつもなく暇な調査なので、やる気と集中力を保つため、学生たちは妙なテンションで頑張ってくれました。これら貴重なデータは、環境省に提供され、漂流ゴミの分布状況を調べることに使われます。

■天皇海山~アリューシャン列島

天皇海山付近にて、底層流を調べるための係留系を3系回収する任務がありました。東大気海洋研の柳本先生の指示の元、体力自慢の学生たちが重量物の観測機材を解体整備してくれました。残念ながら係留系3系のうち1系が浮上しませんでした。時間制限ギリギリまで何度もトライの様子をみて、学生たちは海洋観測の難しさを学んだようです。天皇海山を離脱してアリューシャン列島を目指しました。アリューシャンの海峡付近では低温研の中村先生による潮汐混合24時間CTD観測がありました。ここでも学生たちが大活躍してくれました。東京からダッチハーバーまで、ほとんどの学生には彼ら自身の観測作業は無かったのですが、乗船した仲間を助けよう精神を発揮して観測作業を支えてくれました。



写真2. XCTD(投下式塩分水温深度計)発射に身構える男子学生



写真3. ダッチハーバーのユニシー岸壁に停泊するおしよる丸

■ダッチハーバー入港

アリューシャン列島のウナラスカ島に、漁業で栄える町のダッチハーバーがあります。氷河に削り取られたフィヨルドの険しい山々が迫ります。緑の絨毯に白の残雪が織りなす高山帯が、湖面のように静かな海に映し出されます。世界の絶景の一つではないでしょうか。その入り江の一つにユニシー社の水産加工工場があり、その専用岸壁に着岸しました(写真3)。ユニシーはニッスイの関連会社で日本人従業員(相川さんほか)が常駐しています。相川さんの案内の元、学生たちはタラ加工の工場(写真4)を見学させていただきました。専用岸壁には、タラを満載したトロール船が次々とやってきて、巨大なチューブでタラをに吸い上げ工場に移送します。工場にはラテン系やアジア系の人数が多く、多国籍な従業員でタラ加工を支えている様子でした。水産学部の学生にとっても、自動化された巨大な水産工場とトロール漁船、多国籍な水産現場を見るのは初めてで、国際化された水産業の現場を学ぶことができました。工場見学の日にはユニシーのラウンジに招かれアメリカらしい肉料理をご馳走になり、その次の日はユニシーの方々をおしよる丸に招い



写真4. ダッチハーバーのユニシー社水産加工工場

てバーベキューパーティを開きました。これら公式行事以外の時間には、各々ダッチハーバーの田舎町(ダウントウン方面)を散策したり、ウナラスカ島の大自然の中、海岸線や丘をトレッキングして楽しんでいました。

■ベーリング海

ダッチハーバーでの短い休息のあと、出港してから3日間ひたすら北上しベーリング海峡を越え(写真5)、北極海(チャクチ海)に入りました。北極圏(北緯67度)の少し手前に観測点を設けて、係留系の回収から再設置、海洋堆積物と海水の採取、プランクトンと稚魚類のネット採取などフル観測を行いました。この場所はベーリング海峡からの強い流れがあるため、海底は石と礫がゴロゴロして、その隙間に粘土様の泥が詰まっています。直上の海水には栄養物質が豊富に供給されていて、植物プランクトンの大増殖が可能な場所です。このような生物生産性が高い陸棚域では、表層で生産された多量の有機物が海底に堆積するので、底生生態系も豊かです。北極海では、底生(benthic)と水中の遊泳性(pelagic)の両生態系が強くリンクしているのが特徴です。これを人工衛星から調べるのが本航海の注目の一つです。まず、人工衛星により海の色を調べて表面の植物量を見積もり、海底に輸送される有機物量、そして、その有機物を摂餌するベントス(底生生物)の分布までを推定するのです。この推定法を検証するための現場データを本航海により得ました。北極海では1回の堆積物採取で複数の大型ベントスが得られました。底層水の流れが強いため、堆積物表面には常に酸素豊富な海水が接しています。堆積物中では、深さ20センチくらいまで酸素が残存する状況にあることが分かりました。しかし、堆積物表層にある粘土様の泥の塊の中には、黒色の硫化物が所々見られました。硫化物は完全な無酸素下



写真5. セントローレンス島付近でのCTD観測

でしか発生しません。大型の底生生物が死ぬと、巨大な有機物の塊が堆積物中に残されます。このような有機物が急速に分解すると、無酸素な場所が局所的に生じて硫化物が発生すると思われま。硫化物が発生していることは、それと隣り合わせにして、栄養物質や微量元素が溶出していること、硝酸還元による栄養物質の消失が起こっていることを示唆します。石と礫がゴロゴロした状態なので、層をなした堆積物を柱状に採取することができません。そのため、堆積物環境の詳細は明らかになっていませんが、このような不均一な場所を詳細に調べることが大事なのです。

■ノーム入港

アラスカ半島のベーリング海峡に近いところに、ノームという町があります。緩い傾斜の丘が連なり、荒涼とした風景です。ノームに入港して、短い休息と人員交替をしました。ノームの見どころは冬季の犬ソリとのことですが、この時期は雪が無いので、ソリの出番はありません。4輪バギーが町中や海岸を楽しげに走り回っています。おしよ丸の隣にNOAA(米国大気海洋局)の観測船が停泊していて、その乗組員が女子学生をバギーに乗せて海岸を走り回って楽しませてくれたそうです。その際、おしよ丸の士官がバギーで連れ去られる女子学生を目撃して、無事に戻って来るか心配していました。釣り好きの男子学生は、朝から一人でサーモンを釣りに川にでかけ、道中、(米国では禁止されている)ヒッチハイクをして釣りポイントに向かったそうです。海外の寄港地では何かと心配が尽きませんが、そんな心配をよそに学生たちは寄港地での休息を満喫したようです。

■再びベーリング海

ノームを出港して、函館へ戻る途中もベーリング海の陸棚域で海洋観測が続きま。水深が60mにも満たないので、各観測装置を海に投入してから揚収するまで10分足らずで終わってしまいます。天候も安定していたため、観測と試料処理を永遠に続けるような状況に陥ってきました。こうなると、疲労が貯まって大事な試料処理が疎かになりかねません。そこで、二日に一回は数時間だけ観測作業を中断して、休息時間を挟むようにし

ました。せっかくの休息时间なのですが、元気な学生たちは親睦を深めることにエネルギーを使ってしまいます。この点は昔と変わらないでしょう。エネルギーが尽きて学生教室(食堂)で居眠りをすると、顔に油性ペンで落書きをされる定番芸は今も健在です。とりわけ私の研究室学生の木島君は、顔に落書きをされるのが得意のようでした。研究発表で紹介する観測風景の写真にあっても、落書きされた顔しかありません(写真6)。

ベーリング海峡の南側にセントローレンス島があります。島の北側は流れが強いため栄養物質の供給が多く、高い生物生産性が長期間維持される場所です。底質は砂状でした。いっぽう、島の南側には、冬季に形成される低温かつ高塩分の水が底に貯まっています。水の流れが弱いため、ドロドロの粘土様の堆積物が層をなしています。このような場所であれば、堆積物を柱状(コア)に採取することができます。本航海を通して、理想的な堆積物コア試料が採取されたところ、砂地で難しいところ、石や礫でゴロゴロのためコア採取が不可能なところなど、様々な状況に遭遇しました。このような底質の違いを決めるのが、直上の水の流れです。底質が異なれば化学物質の挙動も大きく違い、それが直上の水質に影響します。底質と水質の違いによって、生息する生物種が変わってきます。セントローレンス島に営巣している海鳥が北側で摂餌するのか、南側で摂餌するのか、その理由を解明することも本航海の注目の一つです。これらの理由を説明するには、海洋の物理・化学・生物の情報を関連付けて、北極海の海洋生態系を総合的に理解する必要があります。本航海は終わりましたが、これからが分析と解析に時間をかけるときです。北洋航海の実習は、学生が研究成果を発表するまで続きます。今後、乗船研究者皆で最大限の成果を挙げるよう努力するつもりです。

■おわりに

北洋航海で学生たちが学べるのは、学問的な技能や知識だけでなく、社会のリーダーになるべく経験を積みその素質を磨くこと、助け合いの精神を身に付けることもあります。北水の卒業生が、いつの日か北洋航海で学んだことが生きる糧の一つになっていると感じてもらえれば嬉しい限りです。北水同窓会の皆様には、今後とも北洋航海の実施について様々な面で応援頂けると幸いです。



写真6. 執筆者(白ヘルメット)と学生のサンプリングの様子

卒業生登録システム《@Frontier》にご登録ください。

卒業しても、ずっと、使える。

hokudai.ac.jp

生涯無料

hokudai.ac.jpドメインのメールアドレスは、北大卒業生の証。
PC・ケータイ・スマートフォンから、メールをはじめとする各種サービスが利用可能です。

北大を卒業しても、
@Frontierで他の卒業生や北大とつながりましょう!

利用資格は北大卒業生。
利用料は無料。

生涯にわたり
メールサービスが利用可能!

オンライン上で
会員検索ができる!

「私書箱」機能も利用可能!

公式サイトから登録可能です
<http://www.hokudai.ac.jp/frontier/>

スマートフォンからも
アクセス可能です!



1 公式サイトへアクセスし、新規申し込みのボタンをクリックします。



2 利用規約をご覧の上、ご自分のメールアドレスを送付後、送られてくるURLにアクセス。



3 登録申請フォームに必要事項を記入の上、データを送信していただきます。



4 本学で、データを確認後(※)、メールアドレスにIDとパスワードを送付いたします。



※1週間から10日程度要する場合がございます。

北大との絆をつなぐ一枚



UCカード株式会社
北海道大学カード



三井住友カード株式会社
北海道大学カード

申込み

UCカード専用ページから申込み

- UCカードサイト
- 新しくカードを作る
- UCカード一覧
- 北海道大学カード



<https://www2.uccard.co.jp/card/lineup/hokudai.html>

三井住友専用ページから申込み

- 三井住友カードサイト
- カードをつくる
- カード一覧
- 北海道大学カード



<https://www.smbc-card.com/nyukai/affiliate/hokudai/index.jsp>

北大事務局
から申込み

専用申し込み用紙を送付いたしますので、下記宛にお名前・ご住所をお知らせください。
カードは、お申し込みから約1ヶ月後に、カード会社からご自宅にお届けします。

北海道大学カードが北大生を支援する仕組み
北海道大学カードへの入会による取次手数料及びカード利用額に応じた提携手数料がカード発行元の北海道大学校友会エルムに還元され、これを「北大生支援資金」として北海道大学に寄附し、「奨学金」、「留学支援金」、「課外活動への費用援助」等に役立ててもらおうこととしています。



北海道大学カード

本学卒業生、教職員又は※在学生父母の方限定

※UCカードのみ

お問い合わせ先



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

北海道大学総務企画部広報課
電話：011-706-2012/2072
kouhou2@jimu.hokudai.ac.jp

北海道大学校友会エルム
電話：011-706-2101/2102
kouyukai@general.hokudai.ac.jp

各種行事開催報告

北海道大学ホームカミングデー2017 水産学部卒業生の集い

高木 力(平元ギ)

平成29年9月30日(土)に北海道大学学術交流会館第一会議室において、「北海道大学ホームカミングデー2017 水産学部卒業生の集い」が開催されました。講師として水産学部卒業生で鴨川シーワールド総支配人の荒井一利氏(昭54㍺)をお招きし、「水族館と保全活動」と題してご講演いただきました。

荒井氏は本学水産増殖学科卒業後、鴨川シーワールドに入社、その後平成19年には館長にご就任され、同22年～27年には日本動物園水族館協会の副会長ならびに会長を歴任されました。教育、調査・研究や種の保全について動物園や水族館の立場から積極的な活動を行なわれています。

当日は学部学生や同窓生、教職員などおよそ60名の方々が聴講に訪れ、安井研究院長と当日ご列

席された北水同窓会横山会長から講演に先立ちご挨拶を頂きました。講演では、毎年大勢の来館者が訪れる美ら海水族館など国内有数の水族館で本学卒業生が荒井氏のような要職に就かれてご活躍されていることや、水族館のバックヤードや飼育風景などのスライドとともに、国内外の水族館の現状や社会的役割、鴨川シーワールドにおける海獣類等の飼育や保全活動など、たいへん興味深い内容のお話しを苦勞話などのエピソードも交えながらご講演頂きました。

講演終了後には、学生からも質問がよせられ、和やかな雰囲気の中盛況のうちに閉会することができました。



荒井一利氏



安井研究院長のご挨拶



横山北水同窓会会長のご挨拶



講演会場の様子

平成29年度 北水同窓会茨城県支部総会

山崎耿二郎(昭40ゾ)



後列左から

大川雅登(昭53ギ)、根本孝(昭63ゾ)、渡辺一夫(昭47ゾ)、東 剛己(平6化)、高島葉二(昭51ゾ)、田中弘太郎(昭52ギ)、横山耕平(平18生)、別井一栄(昭50ギ)

前列左から

大沢直幸(昭47ギ)、西川和夫(昭44食)、山崎耿二郎(昭40ゾ)、春日清一(昭43ゾ)、山根爽一(昭43ゾ)

※小松伸行(平5ゾ)、高橋正行(平24博環)は写真撮影時不在のため不掲載

平成29年度の北水同窓会茨城支部総会が、平成29年11月25日(土)水戸市の三の丸ホテルで開催されました。

2年振りの総会で、総会出席は14名ですが、後の2次会に1名が加わり計15名の参加を得ました。(出席依頼84名)

懇親会が目的の総会ですが、別井一栄幹事長の司会、山崎耿二郎支部長あいさつの後一応議事に入り、議題の支部役員改選については全員留任と決定、その他は特になく速やかに終了、出席者全員で写真を撮り、懇親会となりました。

懇親会は、別井幹事長の司会で、春日清一氏(昭43ゾ)の発声で始まり、出席者全員による自己紹介、そしてそれらに耳を傾けながら、飲みながら、食べながらなごやかに懇談が行われました。

自己紹介は、現在までの人生の道理、苦労話、或いは北大と関連した子供さんの話、現役メンバーの仕事の内容、近況報告等多彩な内容で時が経過しました。

最後は、恒例の「水産逍遥歌」、「水産放浪歌」、肩を組んでの「都ぞ弥生」を合唱し、渡辺副支部長の締めで閉会となりました。

遠漁44年卒同期会の報告

内藤 義和(昭44エ)

2017年(平成29年)新年、遠洋漁業学科同期からの賀状に「そろそろ集まろうか」と書いてあるのが何通かありました。

皆そろそろ古稀を超え心寂しくなったのか、それとも現役を離れ時間が自由になったためか、久しぶりに仲間の顔を見たくなったのでしょうか。

それでは慰め合おうかと言うことになり、函館在住の高橋、内藤が幹事に指名され4年ぶりの同期会を開催することになりました。

なにせこの仲間は遠洋漁業学科最後の卒業生と言われる、輝かしいと言うか物悲しいと言うべきか複雑な感情を共有する同志で、そのためかまとまりがよく、話はあっという間に決まり、期日は9月28,29日、会場は湯の川観光ホテルということになりました。

当日は尼崎から吉川圭一、清水から木嶋武郎、東京から藤井真一、重田親司、札幌から佐藤勝美、山下明則、小樽から松浦光紀、浜野義治、函館から高橋豊美、内藤義和の計10名の参加となりました。

ちなみに遠洋漁業学科昭和44年卒24名うち故人7名(小林謙、西田哲也、阿部俊郎、遠藤元文、江沢史郎、三船晃、工藤孝)連絡不能者1名(藤井尋志)となっております。

宴会1日目は幹事高橋の味のある進行で記念撮影から始まり、心ならずも先に逝った級友7名へ黙とうし、各自の近況報告(ほぼ病氣自慢)、その後お決まりの酒池肉林は残念ながら控えて酒も肉もほどほどに楽しみ、最後に北農寮逍遥歌を唱して中締めとしました。

2次会は全員カラオケルームに移って乾杯から始まりましたが、個室に入って距離が縮まったせいか皆さん話が盛り上がり誰も歌おうともしません、なにせ少なくとも50日位専攻科に進んだ者達は合計数か月以上狭い船内で寝起きを共にした仲なので、このグループでしか話せない話題や、分かり合ってる仲間に囲まれて大いに楽しみ、その夜は各自部屋に引き取りました。

翌29日は所用で参加できない松浦、浜野、佐藤を除いた7名で10人乗りのレンタカーを借り函館周辺観光に出かけました。午前9時に山下の運転で宿を出発し、

ルートは函館→木古内→上ノ国→江差→函館約100km
4時間コースです。

上ノ国のニシン御殿(重文・旧笹浪家)や江差の開陽丸(徳川慶喜が大阪から逃げ帰った船)などを見学し、江差で名物ニシンそばを食し江差追分などを聞き、ひと時にしえに思いをはせました。

そば屋で吉川が同郷の大阪おばちゃんグループに気に入られ、なかなか店から出られなくなる事件などもあり、楽しい小旅行になりました。

午後3時頃、無事函館に到着、名残惜しい思いを残しつつ再会を約し散会しました。



後列左より 吉川圭一、木嶋武郎、高橋豊美、浜野義治
前列左より
山下明則、松浦光紀、重田親司、内藤義和、藤井真一、佐藤勝美

昭和48年水産類入学+α同窓会

蛇沼 俊二(昭53ギ)



参加者

- ①倉田 隆喜、②長島 弘治、③魚野 明彦、④工藤 真弘、⑤梅田 勝博、⑥伊藤 雅一、⑦石橋 秀昭、⑧蛇沼 俊二、⑨鈴木 三喜、⑩河野 象威
⑪山内 訓司、⑫井ノ口 伸幸、⑬小熊 孝幸、⑭鶴岡 秀俊、⑮荒川 直人、⑯山田 康次、⑰長谷川 昭雄、⑱長谷川 栄治、⑲布施 博人、⑳田中 伊織、
㉑土屋 康弘、㉒田中 弘太郎、㉓我妻 雅夫、㉔住田 敏之、㉕高橋 正士、㉖梶原 善之、㉗佃 朋紀、㉘柳川 延之、㉙原 猛也、㉚木戸 芳、
㉛桑原 幸範、㉜元木 秀人、㉝長谷田(増元) 路加子、㉞中川 泰成、㉟東 剛志、㊱日山 克之、㊲浅野(加賀谷) とも恵、㊳中尾 博巳、㊴魚住 昭文、
㊵石山 和行、㊶黒田 実、㊷村越 孝、㊸表 芳弘、㊹鵜沼 ワカ(特別参加)

「昭和48年水産類入学+α同窓会」とは、48年入学同窓生を中心に前後の交友関係も広く含めた同期会です。第一回は平成25年、札幌で44名の参加者のもと開催しました。その際4年後の再会を約束しました。今回、その約束を果たすべく下記の通り開催しました。

日時 平成29年10月7日(土) 午後6時から

会場 ホテル法華クラブ函館

1. 発起人代表あいさつ／魚住 昭文君
2. 乾杯／高橋 正士君
3. 北大水産学部の現状報告／梶原 善之君

4. 一人1.5分間の近況報告
5. 都ぞ弥生 前口上／村越 孝君
6. 水産放浪歌 前口上／黒田 実君
7. エール／村越 孝君
8. 一本締め／中尾 博巳君

会場では、楽しく懐かしいひと時を共有できました。その後の二次会(居酒屋「田にし」同窓生広崎さん経営)においても大いに盛り上がり、「4年後東京で再開」を約束し、解散しました。

出席者44名全員のお名前は写真の下に記載しております。写真の番号と照らし合わせの上ご参考ください。なお、写真人数も多く、印刷では画質が多少劣化するかもしれません。親潮編集委員会にお願いし、「水産学部ホームページ」→「関連リンク北水同窓会」→「ギャラリー」に同写真をアップロードさせて頂きました。一度、こちらも開いてみてください。

北水同窓会長崎県支部総会

渡邊 康憲(昭51化)



前列左より
渡邊康憲(昭51化)、邵花梅(平22-3シ)、川内陽平(平21シ)、
星野浩一(平元ゾ) 後列左より：玄浩一郎(平元ゾ)、
北里海雄(昭61ゾ)、藤田伸二(昭55修ギ)、長江真樹(平3ゾ)

平成29年11月11日(土)の午後6時から長崎市岩川町の割烹ひぐちで北水同窓会長崎県支部総会が開かれました。今年は開催が長崎大学の「第11回東シナ海の海洋・水産科学に関する国際ワークショップ」と重なり、参加者は昨年の半数ほどになることが分かっていたのですが、三役で「毎年開くことに大きな意義がある」との意見で一致し、開催の運びとなりました。

会は星野幹事長の開会宣言で始まりました。次の支部長挨拶では渡邊から親潮309号の特集「北海道大学大学院水産科学研究所と北方圏フィールド科学センター及び紋別市との連携協定について」を取り上げ、紋別市が30年以上にわたり「オホーツク海と流氷」をテーマとした「北方圏国際シンポジウム」を開催しているユニークな都市であり、その推進者であった青田昌秋北大名誉教授は長崎市生まれで諫早高校を卒業された方であることを紹介させて頂きました。

その後、長江会計幹事から会計報告で、繰越金が約3万円であることが報告されたあと、欠席会員の近況が報告されました。また、この一年で大滝英夫会員(昭23ギ)と豊島友光会員(昭26ギ)が他界されたことが報告され、全員で合掌を行うとともにご冥福をお祈りしました。その後は懇親会となり、歓談、自己紹介、記念撮影、乾杯と続いて、最後に星野幹事長の前口上で「都ぞ弥生」と「水産放浪歌」を全員で肩を組んで合唱し、また来年の再会を約して閉会となりました。

同窓会でいつも思うことですが、年令を越えて同窓の皆さんと様々な話題について語り合うことは時空を越えて視野を広げることにつながり、楽しいものです。北海道大学水産学部の伸びやかな校風がこの雰囲気を生み出してくれているのだと、今年も思いを新たにしました。なお、帰り際に、「同窓会への会費納入をお忘れなく!」のアナウンスも付け加えさせて頂きました。

北水同窓会気仙沼支部会'17報告

山下 和則(昭54ギ)

平成29年10月27日(金)の18時より、北水同窓会気仙沼支部会'17が、新城という新興住宅地区にあり地元食通に有名な「浜の家」で行われました。

現在、気仙沼には10名の同窓会員がいますが、長年支部長を務められた畠山和穂相談役は残念ながら体調が優れないとのことで欠席、また、木村孝晴(昭43ギ)は早退のため写真に写らずお帰りになりました。

昨年は5名と少人数での開催に対し、今年は、フレッシュな会員を迎え8名が参加、千葉会長の挨拶に始まり、参加者の自己紹介と近況報告が行われました。

まず、半フレッシュな2人の一人、宮垣さん。復興庁気仙沼支所次長として水産庁から出向しており、ご奮闘の様子。小職はエコニクスを退職して、昨年11月から宮城県任期付き土木職員として防潮堤を造っているの、近くに後輩がいて心強く思います。そして、今年も幹事を務めてくれた、気仙沼市水産課職員の松井さん。大阪出身で気仙沼市に勤めているなんて、昨年に出会ったときから、なんか、悟るものを感じるなあ。



前列左より
熊谷基（平成29院）、山下和則（昭54ギ）、千葉敏朗（昭46ゾ）、小澤瞳（平25海）
後列左より
宮垣梓（平19生）、小野寺孝二（昭56ギ）、松井崇憲（平19資）

フレッシュ初参加の紅一点の小澤さん。水産庁から気仙沼水産課への出向1年目の課長補佐。父親の馬好き（ご本人も）から北大に来たとのことで、さらに学部でも馬術部に入っていたとのこと。聞けば、北洋研ルーツの桜井研究室の出身とのことで、小職は、桜井先生が

D2の時に練習船に同船した時からの長年の間柄であり、気仙沼で教え子に会えるとは不思議な縁を感じます。ラガーマンの千葉会長からの指示で来春の「大島マラソン」に挑戦するそうです。

そして、「カネダイ（株）カニ課」の名刺を持っていた熊谷くん。わかりやすい経営戦略だと感心しました。聞けば、環境研からわざわざ水産の研究室に来て勉強したとのこと。カニ好きだったかどうかを聞き忘れた。長年、気仙沼で水産食品会社を営んでいる小野寺社長は、若い後輩に囲まれてご満悦でした。

気仙沼を含め、宮城県の震災復興はすでに7年を迎え、最近ではマスコミ情報も減っているのが国民の皆さんの感心も少し薄くなっているように感じます。特に産業の復興にはまだまだ時間と、人材・知恵が必要と考えます。引き続き、県・市町村では広く人材を募集していますので、是非、お力をお貸しいただければと思います。

昭和62年卒業77期同期会

佐藤 雅己（昭62化）

平成29年10月7日、昭和62年卒業77期同期会を定山溪グランドホテル瑞苑で開催しました。参加者29名。

紅葉が見頃となった定山溪温泉に、札幌市内はもちろん遠くは福岡からの参加者もおりましたが、天候にも恵まれ宴会開始前には全員集合できました。

宴会開始前に池田純二君にご持参いただきました、

食中毒検査なら信頼と実績の中山薬品商会へ 一検体@1,000円～承ります。

NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD



株式会社 中山薬品商会

代表取締役 中山 一郎

本社 ☎040-0075 函館市万代町20番10号 PHONE (0138) 40-6275・FAX40-3939
釧路営業所 ☎084-0903 釧路市昭和町2丁目15番地3 PHONE (0154) 52-4101・FAX52-4103
札幌出張所 ☎065-0031 札幌市北3条東19丁目6番14号 PHONE (011) 299-5493・FAX299-5493

<http://nakayamayakuhin.jp>

クラス会 報告

特別なカメラで記念撮影をし、板谷利久君がこれまでにお亡くなりになった同期生に哀悼の意を込めて乾杯をしました。

卒業後三十年が経ち、お爺ちゃんになった方もいらっしゃる中、教養部・水産学部在学中の気持ちに戻り、楽しい時間を過ごす事が出来ました。

同期会開催にあたり、情報拡散にご協力いただきました方々、北水同窓会事務局の方に厚く御礼申し上げます。

Facebook内に同期会非公開ページがあります。こちらへの参加もお待ちしております。

<https://m.facebook.com/groups/314299145327699/>



出席者名簿です。(敬称略・順不同)

水産化学科

佐藤 雅己、杉西 紀元、板谷 利久、斉藤 信、
千田(武田)有代、池田 純二、角谷敏幸

水産食品学科

今野 伸、佐見 学、田中 孝樹、竹澤 宏明、
藤原 真由美、村元(山本)裕子

水産増殖学科

山中 崇裕、阿部 善次、伊藤 貴、郷 雄司、平井 尚志

漁業学科

大石 敬、松尾 直人、齋藤 弘純、中村 善幸、
高倉 則雄、八木 和彦、荒谷 竜一、阿部 城久、
安田 昌樹、矢本 諭、岡本 宏一

北水同窓会広島県支部会'17報告

中山奈津子(平15海)



前列左から

黒田麻美(平24生資)、伊藤祐介(平22環境科学院)、
森岡泰啓(昭38ゾ)、中山奈津子(平15海)、

後列左から

伊藤 淳(平22ゾ)、永井達樹(昭48修漁)、石田実(昭57ゾ)、
羽原浩史(昭55化)、中原幸太郎(平25生資)、
中原ゆかり(平26生資)

平成29年9月3日(日)の午後4時から、北水同窓会広島県支部会'17がJR広島駅ビル内のビヤダイニング広島ライオンにて開催されました。

羽原支部長の挨拶および乾杯の音頭で開宴し、支部活動についての報告や参加者10名の近況報告の後、石田実氏(昭57ゾ、瀬戸内海区水産研究所)による講演『明治以降の府県、都市人口の推移』を聴講しました。石田氏は、多くの仕事を淡々とこなし、その多忙な中で趣味にも手を抜かず、今回は、明治から現在までの人口の推移をまとめられ、その特徴や傾向をお話してくださいました。明治17年では、東京はまだ「東京府」であり、人口は全国7位だったそうです。最も興味深かったのは、同年の45位に「函館県」があったことでしょうか。明治36年頃から、東京府の人口が首位を占めますが、昭和20年ごろは、北海道庁(現、北海道)が1位になり、戦後の影響などを伺わせます。石田氏の趣味の域を超えるデータ解析が私たちに新たな知見をもたらし、大いに盛り上がりました。今年は、若手メンバーが4人も新規参入!変わらぬ心意気に皆が肩を並べて杯を重ね、明日への英気を養いました。

次年度は例年通り10-11月に開催すること、次回の設営と会計担当者、話題提供者(題未定、伊藤淳氏(平22ゾ))などを決めて、閉会となりました。

北大進学相談会(大阪)後の懇親会報告

中村 拓真(平15シ)



2017年10月8日(日)12:00~16:00、大阪の梅田スカイビルで進学相談会が開催され、今年も説明に来られた水産の先生、学生との懇親会を、大阪府支部として大阪駅前第2ビル2階にある北大会館にて17:00より開催しました。

※北大会館
北大関西同窓会が所有・運営、北水大阪府支部の事務局としても利用。

相談会では、関西地区を中心とした北大を希望している学生に対して、高木教授(平1漁)と山崎准教授(平2食)と現役学生の2名、計4名の布陣で水産学部の魅力をアピールされていました。

会場には各学部のブースがありますが、水産のブースには多くの進学希望者が訪れているとのことでした。

懇親会では、大学から4名、北水大阪支部から16名、計20名の大人数でなごやかな雰囲気が始まり、本で行われた進学相談会の様子、現在の北大水産学部の様子など、我々関西に住んでいる同窓生には日頃入ってこない話を興味深く聞くことが出来ました。

途中、一人ずつ自己紹介タイムがあり、OB・OGからは自己紹介とともに、自分の北大時代の素晴らしい思い出が語られました。先生方からは、現在の北海道大学と水産学部の状況など話していただき、学生からは、就職・進学希望先などを聞くことが出来、楽しい時間を皆

で共有することが出来ました。

そうこうしているうちに楽しい時間はあっという間に過ぎてしまい皆で記念撮影をしました(筆者は飲み過ぎて写真の記憶がありません)。あらためて北海道大学という強い絆、その中でもさらに強い絆で結ばれた北海道大学水産学部の卒業生であることが、非常にありがたいと思えるすばらしい懇親会になりました。

出席者20名(敬称略)

北大水産学部4名

高木 力教授(海洋生物資源科学部門、水産工学分野)

山崎 浩司准教授

(海洋応用生命科学部門、水産食品化学分野)

加藤 莉子(修士2年生 資源機能化学科)

辰 義則(4年生 増殖生命科学科)

OB出席者16名

大野 正浩(昭36セ)、上田 稔(昭45化)、

久保田 幸一(昭45化)、入江 和彦(昭45ギ)、

福井 滋(昭50食)、大村 泰治(昭51食)、

玉置 純(昭51ギ)、石田 浩平(昭54食)、

金子 哲郎(昭54食)、佐々木 雅人(昭56化)、

吉村 直孝(平3ゾ)、若林 真由(平5修食)、

堀越 光晴(平8ギ)、藤原 匠逸(平13生)、

中村 拓真(平15シ)、櫻井 遥平(平19生)

おしよる丸の神戸寄港

高木 英男(昭59ギ)



今年の春、北大水産学部付属練習船「おしよる丸」が約30年ぶりに神戸港に寄港しました。

高木省吾船長のご厚意により、忙しい時間を割いて船内の見学をさせてもらえることとなり、誘い合わせて大阪と兵庫の同窓生約30名が神戸新港第二突堤に集いましたので、その報告をさせていただきます。

2014年に就航したおしよる丸V世には、翌年の夏に大阪港に寄港した時に乗船見学させてもらったので、私は今回2度目の見学ですが、何度乗っても立派な良い船で感激します。

おしよる丸の高木船長は、私の同級生になります(ただし入学した時は同級生ですが、卒業時は私の方が後輩、笑)ので、おしよる丸との再会は二重に嬉しいことです。

そして、この再会の機会を得ましたのは、北水同窓会の大阪支部長をされている田中丈夫支部長さん(昭和50年水産学部卒)のお誘いがあったことで、感謝の気持ちでいっぱいです。

2年前には、おしよる丸の寄港に合わせて開催された大阪府支部同窓会の同窓会にお声をかけて頂いたのですが、今回も実は田中前支部長さんが、おしよる丸の

航行予定を偶然ネットで見られて神戸港寄港とあったのをご覧になって、私の方に、この際に集まれそうな同窓に声かけしてはどうかとの提案を頂き、それぞれの支部で身近な同窓に声を掛けて急遽集まった次第です。

なお私は不肖ながら北水兵庫県支部長をさせていただいております。

集まったメンバーは、田中支前支部長さんのような大先輩から、今年の春に北大を卒業したばかりのフレッシュな新人である梶原さんと高岸さんまで、幅広い世代がおしよる丸という共通の思い出の元に集いました。

梶原さんと高岸さんは卒業以来の顔合わせだったようで、二人で仲良く話しされてる姿を見て若者は良いな



高木船長(左)、筆者(右)2015年



高岸さん(左)と梶原さん(右)

あと、ついつい親父な見方をしてしまうのはやはり私も年を取ったようです。(笑)

ちなみに梶原さんはこの春に兵庫県水産課に入った私の可愛い部下です。

また、水産学部卒業者だけでなく福井さん(昭和40年理学部卒)や三津さん(昭和45年農学部卒)ほかの方々も、おしよ丸を見てみたいとご参加して下さいました。

実はうちの次男も北大(工学部修士)をこの春卒業したばかりで、同い年になりますので同窓会の皆様どうかよろしく願いいたします。



岡田さん家族(右)と山條さん親子(左)

また、岡田さん夫婦(平成20年水産学部卒)のように夫婦揃って北大を卒業された方々も居られますし、今回家族連れで来られた方が4組居て、卒業生の皆さんがおしよ丸という船を誇りに思い、その魅力を家族にも自慢したい気持ちを持たれてるのだからなあと思いました。

さて、当日は午後からおしよ丸は公式行事で、兵庫と大阪の高校生を招いて「海の宝を巡る学びと体験マリナーニング」というイベントを開催されることになっており、我々はその時間までの合間を縫って船内の案内見学をさせてもらいました。

船の皆さんはほんとに慌ただしい中で、我々のお世話を頂き、ほんとに恐縮しました。

サロンで船長から概要の説明をしていただき、その後2班に分かれて船内を見学。

私が学生の頃に乗船した「おしよ丸Ⅲ世」よりも、総トン数も随分増えて装備も充実し、今の学生達を羨ましく思いました。

話が少し横道にそれますが、練習航海の思い出としては、忘れもしない大学2年が終わる1982年の3月(記

憶違いで無ければおしよ丸Ⅲ世の最後の練習航海だったかと思います)、東シナ海でのトロール実習を終えて母港の函館に向けて日本海を北上していた時のことです。

能登沖で、二つ玉の非常に巨大な、今で言う爆弾低気圧に遭遇して本当に生きた心地がしない思いをしたことがあります。

大時化の中、船は船首を波に立てるのが精一杯で身動きできず、傾斜計を見れば片側40度、両側80度の揺れで、ブリッジの控えの部屋の床でマグロになってる同窓生が、揺れるままに部屋の中をゴロゴロと転がっていきませんが、だれも止められません。

やっと当直が終わって船室に戻ると、狭いベットの端にしがみついて眠るのですが、ようやく眠れたら、なんと今度はジェットコースターに乗ってる夢を見ました。



サロンで船長からの説明

しかもいつまでも終わらないジェットコースターに延々と乗っていて、「もう止めてくれー」と目を覚ませば、体が浮き上がるほど揺れる船のベットの中、まあほんとに辛い体験でした。

大学卒業後も公私に数え切れないほど船には乗っていますが、あの日の時化を超える時化にはまだ遭遇したことはありません。そして、ジェットコースターに乗ってる夢もあれ以来見たことはありません。

話を戻し、近年水産学部への興味や志望が増え、結構人気が高まっていると聞きました。

それに伴って、水産学部生も女性の割合がずいぶん多くなっているとも聞きます。

私は当時水産学部の漁業学科に所属して、漁業学科の女性は紅一点、記憶が確かなら漁業学科で初めて

寄稿

の女学生だったはずですが。おしよる丸の練習航海にも一緒に乗りました。

増殖や食品加工、水産化学学科には、何名かずつの女性が居ましたが、それでも総じて男ばかりの学部でしたので、水産学部の人気が高まるのは卒業生としては、たいへん嬉しいところですよ。

今回、「海の宝を巡る学びと体験マリンラーニング」と称して、海に興味がある高校生達に我らの誇りおしよる丸を実際に見て、具体的にどんな研究をしているのか知ってもらうのは、まさにその流れを後押しするものであり、素晴らしいことだと思います。

私が暮らす兵庫県では、日本海に面する香住高校という高校が海洋科学科を持っています。

高校では但州丸という練習船を持っていて、当地で県水産事務所の所長をしていました時には、入学式や卒業式、練習航海の出船式、帰港式等に出席させて頂いていましたが、生徒さん達が皆ほんとに礼儀正しくて、元気も良く、いつもとても爽やかな気持ちにさせてもらいました。

香住高校では、普通科よりも海洋科学科の人気が高いと校長先生からお聞きしましたが、先生方の努力の賜なのだと思います。

この但州丸を活用して、地元の小学生を対象にした水産少年教室や、中学生を対象にしたオープンハイスクールを開催されたりして、実際にどんなことを学べるのか知ってもらう取組をされています。

これは、おしよる丸での体験ラーニングに通じるものですが、次代を担う若者達に、水産の大学や高校、そして水産業について理解し、イメージを膨らまし、そして夢を抱いてもらうことが大切で、その場合に船というのは、夢やロマンを象徴する素晴らしい道具になります。

我が愛する母校(母港)北大が先頭に立って、日本や世界の水産教育を盛り上げていくことで、次代を担う、海の男、海の女が育ってくれることを願ってやみません。

■開催日:29年4月15日(土)

おしよる丸神戸港寄港参加者名簿 合計31名

■北水同窓会兵庫県支部、大阪府支部+家族:23名

福井滋(昭50ゾ)、田中文夫(昭50食)、五利江重昭(昭58ゾ)、高木英男(昭59ギ)、増田恵一(昭59ゾ)、西川哲也(平3ゾ)、川邊一郎(平3ゾ)、若林真由(平5修卒食)、山條喜宣(平15海科)、岡田佑太(平20海生)、岡田初美(平20海生)、梶原慧太郎(平29修卒海生)、高岸愛美(平29修卒海生)

■北大関西同窓会:6名

三津正人(昭45農)、福井昭夫(昭40理)、松下秀之(昭54農)、岩堀隆志(平16農)、川本崇彰(平23工)、白崎深由希(平26修卒広報)

■友人、知人:2名

赤山大介(白崎さん友人)
伊藤雅実(北海道大阪事務所長)

いま豊かな食生活。・・・見直しましょう魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場卸売業者

中水

青森中央水産株式会社

代表取締役会長 石川 栄一

代表取締役社長 塩谷 康之助

〒030-0183 青森市卸町1番1号(青森市中央卸売市場内)
TEL 017(738)1181 ホームページ: <http://www.aochuu.co.jp>

□学位取得者

【平成29年6月取得】

嶋田 宏	北海道オホーツク海沿岸における麻痺性貝毒の発生予測に関する生物海洋学的研究
------	---------------------------------------

【平成29年9月取得】

山木 将悟	日本周辺海域における小型ハクジラの食性
-------	---------------------

竹谷 裕平	青森県周辺海域におけるキアンコウの生態および資源に関する研究
-------	--------------------------------

李 哲	A study on swimming behaviors of larval and juvenile Pacific cod <i>Gadus macrocephalus</i> in relation to temperature and food availability (異なる餌条件と水温におけるマダラ仔稚魚の遊泳行動に関する研究)
-----	--

五十嵐弘道	アカイカ好適生息域形成メカニズムの解明と推定手法の高度化
-------	------------------------------

金子 信人	Validation of insulin-like growth factor-I and its binding proteins as physiological growth indices in salmonid species (サケ科魚類におけるインスリン様成長因子-Iおよびその結合蛋白の生理学的な成長指標としての有用性の検討)
-------	---

【平成29年12月取得】

亢 世華	Comparative morphology and phylogenetic relationships of the family Polynemidae (Pisces: Perciformes) (ツバメコノシロ科魚類の比較形態学および系統類縁関係に関する研究)
------	--

山本 圭吾	大阪湾における麻痺性貝毒原因藻 <i>Alexandrium tamarense</i> の大規模増殖および二枚貝の毒化に関する生物環境学的研究
-------	--

□会員異動

○平成29年4月1日付 昇任

松石 隆 大学院水産科学研究院教授に昇任

細川 雅史 大学院水産科学研究院教授に昇任

岸村 栄毅 大学院水産科学研究院教授に昇任

○平成29年6月1日付 採用

芳村 毅 大学院水産科学研究院准教授に採用

○平成29年10月1日付 採用

松野 孝平 大学院水産科学研究院助教に採用

函館竹田

株式会社
竹田食品

代表取締役 竹田寿広

食卓に函館の味を



本 社 工 場 函館市浅野町3番10号
TEL (0138) 43-1110 (代) FAX (0138) 43-1113

札 幌 営 業 所 札幌市中央区北13条西19丁目1番1号 (水産保冷配送センター 3F)
TEL (011) 623-0990 FAX (011) 644-9910

竹田食品販売(株) 東京都中央区築地7丁目5番3号 (紀文第一ビル 2階)
TEL (03) 6226-6820 FAX (03) 3545-2135

竹田食品販売(株) 宮城県仙台市青葉区本町2丁目9番8号 (日宝ビル 5階3号室)
仙台営業所 TEL (022) 772-1970 FAX (022) 722-1987

竹田食品販売(株) 大阪府大阪市淀川区西中島4丁目3番5号 (NLCセントラルビル 5階)
大阪営業所 TEL (06) 6307-5311 FAX (06) 6307-5358



会員死亡通知

原中谷青松小山小高内小大湯佐月小湯相浅亀岩今工西三寺長西豊沼山古藤奈我小高山冲鈴高村驚加佐武大岡東蒨	子山脇戸長杉本林田山小川滝田々津野佐川見田田井藤村浦田峰山島崎本田部藤奈我妻小林高山中冲鈴高山村驚加佐武大岡東蒨	清一 借信寛 楠康正 正昭 良徳 英夫 幸史 増博 利克 聡忠 賢一 明進 与志 昌次 友淳 政格 一五 國美 長幹 賢治 忠良 讓斌 弘司 勉成 靖郎 裕巳 政美 松彦 敏夫 英孝 太郎 祐樹	(昭13ヨ) (昭15ヨ) (昭16セ) (昭17ヨ) (昭18セ) (昭20ギ) (昭20セ) (昭22ギ) (昭22ギ) (昭22ヅ) (昭22ヅ) (昭23ギ) (昭23ギ) (昭23エ) (昭23セ) (昭23教セ) (昭23教セ) (昭25ギ) (昭25ギ) (昭25ギ) (昭25エ) (昭25セ) (昭25教セ) (昭25ヅ) (昭25ヅ) (昭26ギ) (昭26ギ) (昭26エ) (昭26ヅ) (昭28ヅ) (昭29ギ) (昭30セ) (昭31ヅ) (昭32ヅ) (昭33エ) (昭33エ) (昭33エ) (昭34セ) (昭34ヅ) (昭35セ) (昭36ヅ) (昭38セ) (昭39ヅ) (昭41ギ) (昭42ギ) (昭44ヅ) (昭46化) (昭46食) (昭47化) (昭50食) (昭52化) (昭52ヅ) (平3ギ) (平20資)	平成29年 1月 平成29年 5月 1日 平成28年 4月30日 平成29年 7月 7日 平成27年 8月18日 平成28年 7月16日 平成30年 1月 5日 平成29年 4月 平成29年 3月13日 平成29年 6月10日 平成29年11月16日 平成28年10月24日 平成29年 9月 平成27年12月15日 平成29年 6月12日 平成27年 2月 平成29年12月 8日 平成23年 平成29年 6月 2日 平成28年 平成29年 3月26日 平成29年 9月 8日 平成27年 8月26日 平成29年 4月18日 平成29年10月21日 平成29年 5月 平成29年 5月21日 平成29年10月21日 平成28年11月 6日 平成28年 9月 6日 平成27年 1月 1日 平成29年10月27日 平成29年10月 6日 平成29年11月11日 平成15年11月 平成29年 1月28日 平成29年11月20日 平成29年12月 8日 平成28年 平成30年 1月13日 平成28年 2月10日 平成29年 8月18日 平成29年 9月30日 平成29年11月20日 平成27年 平成29年 9月 4日 平成29年 2月24日 平成29年 6月18日 平成29年 3月18日 平成29年 3月 平成29年 2月 3日	八戸支部様より ご家族様より ご家族様より ご家族様より 菊池 良兵(昭22ギ)様より 小島 伊織(昭23ギ)様より 菊池 良兵(昭22ギ)様より ご家族様より ご家族様より ご家族様より 市川 渡(昭22ギ)様より 渡邊 康憲(昭51化)様より 小島 伊織(昭23ギ)様より ご家族様より ご家族様より ご家族様より ご家族様より 国崎 俊彦(昭45ギ)様より ご家族様より ご家族様より ご家族様より 佐々木一弘(昭25セ)様より ご家族様より ご家族様より 山口 皓(昭44エ)様より ご家族様より ご家族様より ご家族様より 渡邊 康憲(昭51化)様より ご家族様より ご家族様より 野澤 一太(昭30セ)様より 箕田 嵩(昭31ヅ)様より 学内より ご家族様より 佐野 康一(昭33エ)様より 茨城県支部様より 多賀春雄(昭34セ)様より ご家族様より 茨城県支部様より 小樽支部様より ご家族様より 赤羽 光秋(昭39エ)様より ご家族様より 山本勝太郎(昭42ギ)様より 敷中 博(昭44ヅ)様より 相山 忠男(昭46食)様より 原 彰彦(昭46ヅ)様より 酒井 健司(昭47ギ)様より 山口 皓(昭44エ)様より 山口 皓(昭44エ)様より 吉田 秀雄(昭51ヅ)様より 稲田 真一(平15海)様より ご家族様より
--	--	---	---	--	--

親潮投稿規定

【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛に封書で郵送するか、同窓会のメール宛に送付することとする。

【同窓生の声】

同窓会誌に対する意見、感想などについての投稿とする。個人的な連絡は掲載しない。一つの原稿につき300字までとする。同窓会宛のメール(hokusuialumni@gmail.com)のみ受け付ける。写真は入れられない。

[編集後記]

平成29年度「親潮」第2号(通算310号)をお届けします。

特集「北水の今」は教育・研究についてのトピックスを扱っております。本号では、昨年夏に竣工から4年目にして、初の外国航路としてベーリング海や北極海に出た本学部附属練習船「おしよろ丸V世」に関する記事を航海責任者として乗船された大木淳之准教授(特別会員)に執筆していただきました。懐かしいと思われる方も多い、ダッチハーバー入港やベーリング海峡のセントローレンス島付近などの写真を交え、北極域(ベーリング海～チャクチ海)での最新研究の概要や乗船学生の様子をわかりやすく書いていただきました。大木先生には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、今号では、高木英男様(昭59ギ)から「おしよろ丸の神戸寄港」のご寄稿をいただき掲載しております。昨年4月に40年ぶりに神戸港におしよろ丸が入港したことから近郊の同窓生約30名がおしよろ丸に集われた様子が報告されております。

「各種行事開催報告」としては、北大の同窓生が集う「北海道大学ホームカミングデー2017 水産学部卒業生の集い」の開催の様子を掲載しております。是非とも内容をご覧ください。また、次回、大阪市で開催する北水同窓会定期総会の案内および参加申込書を掲載しております。近郊の方々をはじめ、ご都合がつかれる会員の皆様は、是非ともご参加ください。

次年度第1号(通算311号目)の原稿の締め切りは、平成30年7月10日(必着)とさせていただきます。寄稿につきましては、郵送もし

くは電子メール(hokusuialumni@gmail.com)にて受け付けておりますので、支部報告や同期会報告、著者の紹介など、多くの原稿をご投稿下さいますようお願い致します。また、親潮では同窓の方々の交流形態として「同窓生の声」の広場を設けております。同窓会誌に対するご意見や感想などを募集しております。詳しくは上欄に掲載しております投稿規定をご参照ください。

支部総会や同期会の開催時の写真や開催案内を北水同窓会のホームページ(<http://hokusui.net/>)にて掲載しておりますので、是非ご覧ください。

編集幹事/工藤 秀明(平3ゾ)

平成30年2月発行

北水同窓会

〒041-8611 函館市港町3-1-1

TEL & FAX.0138-42-3681

E-mail:hokusuialumni@gmail.com

人工魚礁を通じ 水産資源の保護・増殖に貢献します



鳥牧
クロソイ



FP魚礁



増毛
メバル

海洋土木株式会社

〒104-8139 東京都中央区銀座3-9-1 1

代表取締役 木實谷浩史 (54ゾ) 取締役副社長 石井直志 (49ゾ)
青森営業所長 山口伸治 (49化) 北陸営業所長 魚住昭文 (52ギ)
札幌支店部長 日和久典 (平6ギ)



株式会社 釣八

URL <http://www.tsuru8.co.jp/>

よく間違えられますが、「つるはち」って読みます。

社長の名前が「つるみ」だから。

世界中の海から、イカ、赤魚、サバ等なじみのある水産物を、

いま、求められるかたちにして、お届けできるように奮闘努力刻苦勉強

代表取締役社長 釣見 泰之(昭和59年 漁業学科卒)

【水産学部卒業社員】 土井 倫行(昭和60年卒) 奥田 和人(昭和60年卒)

本社

〒104-0042 東京都中央区入船3-8-7 ザ・ロワイヤルビル2F

TEL03-3297-8883 FAX03-3297-8885

八戸支店 〒031-0082 青森県八戸市常海町13-2 サンデュエル内丸1203 TEL 0178-71-3488

銚子支店 〒288-0051 千葉県銚子市飯沼町186-93 八木友ビル2F TEL 0479-25-8822

大阪支店 〒550-0015 大阪府大阪市西区南堀江3-14-12 イイダビル2-2A TEL 06-6532-8886

福岡支店 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-18-28 フクオカビル7F TEL 092-401-8828

関連会社

築地:(株)釣十(マグロ仲卸) 中国:大連釣八(水産物加工)

アメリカ・ロスアンゼルス:フィッシングエイト タイ・バンコク:釣八タイランド

釣八グループは、外国人財事業により 水産・食品・製造業界の人手不足を解決！

外国人財専門 紹介・派遣会社

株式会社グローバルスタッフィング

Global*
Staffing

人材紹介、人材派遣
有料職業紹介事業許可 13-ユ-307639
労働者派遣事業許可 派13-306347
国内、中国、ミャンマー、ベトナム

ミャンマー 日本語学校・技能実習生送出し

ミャンマー アンダマンエイト



技能実習生送出し (JITCO認定)
日本語学校「みらい」の運営
ミャンマー進出コンサルティング
人材許可番号: 131/2015



就労ビザ・技能実習生・留学生採用、トータルにサポート！

東京都中央区入船三丁目8丁目7番 ザ・ロワイヤルビル5F 〒104-0042 TEL: 03-6228-3078

交通事故、労働災害、医療過誤、倒産、債務整理、サラ金破産
個人再生、未払い残業代請求、離婚、相続、遺言、成年後見

相談料は全て無料です

吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原美智世
(昭和48年増殖学科卒業)

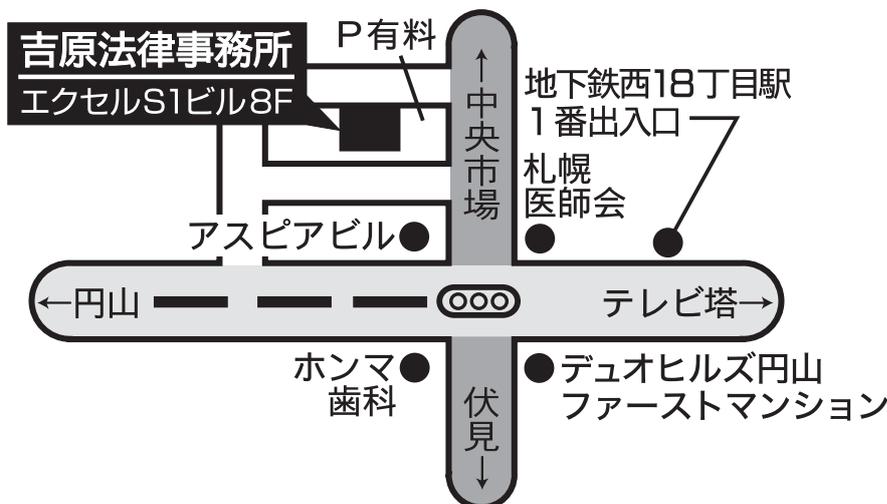
お気軽にお問い合わせ下さい

TEL 622-7963 FAX 622-8414

札幌市中央区大通西20丁目2-20(エクセルS1ビル8F)

(交通) 東西線西18丁目地下鉄1番出口

(E-mail) lawyer@yoshihara-lawoffice.jp



営業時間においでになれない方はご相談下さい。